

HOME&INTERIOR
California House
 ・カリフォルニアハウス・
 SAITAMA NIIZA



ブルーのアクセントカラーが可愛い外観はあえて様々な素材を使うことでオリジナルの溢れる世界に一つだけのデザインに。カバードポーチに置かれたイスは西海岸のモーターの部屋の入り口をイメージ。



**西海岸のモーターをイメージした
カリフォルニアモダンなファミリーハウス**

埼玉県新座市にひっそりと佇む一軒家。新婚旅行で初めて訪れた西海岸の雰囲気を反映させた夢のマイホームは、家族の笑顔が溢れる素敵に住まいだった。



都心からさほど遠く離れていないにも関わらず、静かでゆったりとした時の流れる埼玉県新座市。この地で生まれ育ったS氏は、実家からわずか数分という土地に、2018年に完成したマイホームを建て、奥様とお嬢さんの3人で暮らしている。その住まい作りはカリフォルニアをテーマにした家を建築できるハウスピルダを探るところからスタート。間もなく埼玉県川口市に拠点を構える『HUG HOME』にたどり着いたという。そして、この出会いによりS夫妻が思い描いていたスタイルの家はより一層現実的になり、住宅のスタイル

にも新しいテイストが加わったという。もともと二人がイメージしていたカリフォルニア・スタイルの家は、カバードポーチのあるサーファーズハウスのような家であったそう。ところが、同社から提示されたプランは、S夫妻の想像とは違ったものだったという。ところが、そのプランを聞くうちに、すぐに「こっちの方がいいね」と思うようになり、現在のスタイルになったのだ。外観はカリフォルニア、まさにアメリカ西海岸スタイルというよりかは、どこかモダンなデザイ

ンの家。だが、よく見てみるとどこか懐かしいアメリカを感じさせる雰囲気がある。じつはこの家のコンセプトは「アメリカの70-80年代のモーター」なのだ。当時の建築やデザインを熟知した『HUG HOME』代表の高津氏がプランは、2階のベランダに特徴がある。そこはV字モチーフなど、アメリカのモーターやアパートに使われるデザインを参考にしており、寝室からみるベランダはどことなく西海岸そのものである。「初めての家作りで色々分からないところも多かったのですが、次々とプランを出してくれたので、

私たちは提案されたものを選んでいくだけでした。このためスムーズに、思い描いていた理想の家が完成しました」とS夫妻。新婚旅行でカリフォルニアを訪れた際に、現地の家々の魅力にはまったというが、完成したその住まいには、日本建築ならではの特微もしっかりと取り込まれている。その一例が和室だ。幼い頃から純和風建築の家で育ったというS氏。幼い頃から畳の上で育つだけに、「畳の部屋も欲しい」と考え、プランに取り込んでもらった。「西海岸スタイルの家に和室？」と、一見ミスマッチかとも思えるが、ダイニングの横

に設けられた、畳のスペースは違和感なく馴染んでいる。トップライトから差し込む光が気持ちいいリビングは、家族が集まる憩いの場。見上げれば2階も覗くことができ、キッチンにいる奥様とも会話ができる。どこにいても家族も気配を感じ取れる構造になっており、家族間のコミュニケーションもより一層強くなった。「遊び盛りの4歳の娘がこの家ですくすくと成長していくことが楽しみです」と、S夫妻は語ってくれた。

profile	
OWNER	S FAMILY
BUILD	2017
HOUSE LAYOUT	3LDK
公務員として働く旦那さんと、専業主婦の奥さんと4歳になる娘さんの3人家族。将来はもう一人お子さんが増えた時ように二階の寝室は仕切れる様に設計したそう。	



LIVING

リビングのテレビ台は作りつけのもの。なかなか好みのテレビ台に出会えなかったというが『HUG HOME』と相談してサイズぴったりのものを作る事にしたのだとか。



若い頃はスケートボードに夢中だったというS氏。コレクションとして持っているボードはリビングの目立つところにディスプレイ。中央の同じ絵柄のものは、80年代にスケボー界を盛り上げたクリスチャン・ホノイのサイン入りボード。当時まだ彼女であった奥さんと一緒に並んで購入しそれぞれの家があったが、結婚を機にこの家に二枚同じものが揃ったというエピソードが。



KITCHEN

キッチンは奥様のこだわりで対面キッチンに。キッチンから和室で遊んでいる娘さんの様子を見ることが出来るので安心して料理が作れるそう。



階段を上がると踊り場を中心にしてそれぞれの部屋が別れている。こちらは西海岸のアパートをイメージしたのだとか。

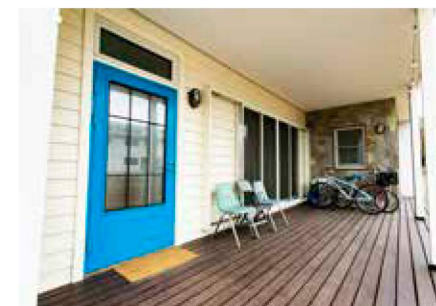


DINING

ダイニングテーブルは脚が中に入っていて邪魔にならないものを探していたところ、『HUG HOME』のオープンハウスで展示されていたテーブルがまさに理想的だったそうで、即オーダーを決めたという。あえてイスの色はバラバラに。



畳スペースはふすまなどで特別仕切ることなく、オープンなものとしている。小上がりにしたため、畳の下は収納スペースにもなっており、スペースを有効活用。畳は琉球畳を使用。



夏にはこのカバードポーチでバーベキューを楽しむプランも考えているのだとか。



ベランダの手すりや柱のV字は70年代のモータールやアパートのデザインによく使われていたものだそうです。

